

盛岡を発掘する

平成26年度調査速報



あかやきどき【あかやき土器】



あかやき土器出土状況 (細谷地遺跡)

あかやきどき【あかやき土器】
土師器(はじき)と似ているが、須恵器(すえき)の技法で作られた赤色系土器。ワケロを使って作られ、盛岡市内では九世紀から出土するようになる。

いせき【遺跡】

いせき【遺跡】
過去の人間活動の痕跡。遺構や遺物・遺物を含む場所を指す。全国にはおよそ四万ヶ所が数えられ、盛岡市内にはおよそ四ヶ所が確認されている。文化財保護法では「埋蔵文化財包蔵地」と呼ばれ、開発の前には発掘調査が義務づけられている。一般的には所在地や字名をもとに遺跡名をつける。遺跡は、人間の歴史を考へる上で重要な役割を担う学術的資料であるばかりでなく、その地域のオリジナリティを体現する環境の一部である。

いづつ【遺物】

いづつ【遺物】
過去の人間活動の動産的な所産。土器や石器など、動物や動植物の遺存体など、人工活動の結果もたらされた自然遺物との二つに分けられる。

おとしあな【陥し穴】

おとしあな【陥し穴】
動物を捕獲する目的で作られた、罠用の土坑。北海道・東日本を中心に分布し、縄文時代や長柄形で、深さ・形態は多様だが、円文型に向かっただいに狭くなる形が一般的である。また、底に逆杭を立てた跡のあるものもある。

かめ【甕】



土師器甕 (野古A遺跡)

かめ【甕】
弥生時代以降の煮炊や貯蔵に用いられた容器の名称。縄文時代の器は、深鉢と呼ぶ。

くわ・かく【曲輪・郭】

くわ・かく【曲輪・郭】
城郭や居館の中で土塁、堀、石垣、築地塀などの土木工事による区画施設。防衛施設で囲まれたエリアのこと。曲輪(くるわ)とも読む。小形の城館では一つか二つ程度の曲輪で構成されるが、大規模な城館の中世城郭では城や居館の数を東北方の曲輪と呼ぶことが多いが、一つの城館を複数の曲輪で構成する場合、「南館」、「中館」、「大館」、「小館」、「本館」、「外館」などと呼んでおり、曲輪や郭と同じ意味で「館」と呼んでいる事例が数多く存在する。戦国時代末期以後の近世城郭では、一部に曲輪の名称は残るが、主要な曲輪は「本丸」、「二ノ丸」、「三ノ丸」などと呼ばれるようになっていった。

じょうさく【城柵】

じょうさく【城柵】
古代、律令国家が蝦夷統治のため、軍事的側面と政治的側面を併せ持つ拠点として造営された。文獻上では六四七年の湍足柵が最も古く、八二二年に造営された徳丹城を最後に盛岡市内では、志波城が陸奥国最北端にして最大の城柵として知られる。



国指定史跡 志波城跡

すえき【須恵器】

すえき【須恵器】
窯で千度以上の高温で焼かれた、暗青灰色陶質の土器。古墳時代に朝鮮半島伽耶地方の技術者が渡来し生産が始まった。ロクロを利用して成形技法と焼成技法に特徴がある。盛岡市内では八世紀以降に出土するようになる。

そうかくもん【双鶴文】



軒丸瓦の双鶴文 (国指定史跡 盛岡城跡)

そうかくもん【双鶴文】
南部氏の定紋(じょうもん)のひとつで、向鶴文(むかいづるもん)ともいう。南部氏は武田菱文や九曜文なども用いた。双鶴文は丸の中に舞鶴が向い合った紋章で、盛岡城の瓦や南部氏の武器、衣装、調度品などによく用いられている。

たてあな【穴建物】



穴建物跡 (細谷地遺跡)

つき【坏】

つき【坏】
古代のもっとも一般的な食器。碗よりも浅く大型で、皿より深いもの。土師器や須恵器・木製品に多く見られる。時期や地域差で、丸底や平底、ふたの有無、高台の有無などの違いがある。

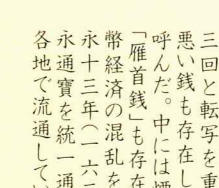
ぶらう【土坑】

ぶらう【土坑】
城郭や居館で堀などを掘った際に発生した土砂を積み固めながら盛り上げて構築した土手状の区画・防壁施設のこと。堀築の内側や外側に併行して設けられること。堀築が多いが、大きな曲輪の内部を小さな土塁で分割する場合もある。

はじき【土師器】

はじき【土師器】
弥生土器の流れをくむ、野焼きで約700〜800度の温度で焼かれた軟質の土器。素焼きで、赤・褐色系の色調。古墳時代のものを指し、中世以降の同系の土器は「かわらけ」などと呼び区別することが多い。

びたせん【鏝銭】



国指定重要文化財 繫遺跡出土深鉢形土器

びたせん【鏝銭】
十二世紀後半から貨幣経済が浸透する中で、日本では通貨のほとんどを中国銭を輸入してまかっていた。通貨が足りなくなると、輸入した中国銭(本銭)を形取りして銅を流し込み、模倣銭(私鑄銭)を造り流通させていた。模倣銭の中には二回、三回と転写を重ね、文字の薄れた品質の悪い銭も存在し、こうした銭を「鏝銭」と呼んだ。中には煙管の雁首を取って潰した「雁首銭」も存在した。こうした鏝銭は貨幣経済の混乱を招いたが、江戸時代の寛永十三年(一六三六)六月、徳川幕府が寛永通寶を統一通貨として通用させるまで各地で流通していた。

ふかばち【深鉢】



国指定重要文化財 繫遺跡出土深鉢形土器

ほったてはしら【掘立柱建物】

ほったてはしら【掘立柱建物】
地面に穴を掘り、そこに下端部を埋め込んで立てた柱で構成される建物。縄文時代から近世まで存続する。柱を埋めるために掘った穴を「掘り方」という。

ろ【炬】

ろ【炬】
火を焚いた場所。一定の場所で火を焚き続けると、熱で地面が変色する。石で囲んだ石囲炉、土器を埋め込んだ埋焼炉、住居の床面や火を焚いた地床炉など、形態は多種多様である。調理、暖房、照明の機能をはたした。

盛岡市内の主な遺跡と時代

時代	年代	西暦	主な出来事	市内の主な遺跡	今年度調査遺跡	
原始	旧石器時代		大陸と地続き、大型の動物が生息する	小石川遺跡(玉山区藪川)		
		草創期	12,000年前	土器の使用がはじまる	大新町遺跡(大新町)	
	縄文時代	早期	8,000年前	定住化がすすむ	館坂遺跡(前九年) 庄ヶ畑A遺跡(上米内) 大新町遺跡(大新町) 日戸遺跡(玉山区日戸) 新茶屋遺跡(山岸) 上八木田遺跡(新庄) 畑遺跡(上米内)	
		前期	6,000年前	気候の温暖化、海面の上昇 漁労の発達、各地に大型住居が出現	【県史跡】大館町遺跡(大新町) 柿ノ木平遺跡(浅岸) 繫V遺跡(繫) 上米内遺跡(上米内) 川目C遺跡(川目) 湯沢遺跡(湯沢) 大葛遺跡(浅岸) 落合遺跡(下米内) 萩内遺跡(繫) 上平遺跡(猪去) 手代森遺跡(手代森) 川目A遺跡(川目) 宇登遺跡(玉山区川又)	
	中期	5,000年前	各地に大規模な縄文集落が発達			
	後期	4,000年前	気候の寒冷化 ストーンサークルがつくられる			
	晩期	3,000年前	東日本で亀ヶ岡文化が栄える			
	古代	弥生時代	紀元前	水田耕作の開始 金属器の使用が始まる	手代森遺跡(手代森) 繫VI遺跡(繫) 一本松遺跡(下米内)	
			紀元後	57	倭の奴国王が後漢の光武帝より印綬を賜る	
		古墳時代	239	邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを出す ヤマト政権、統一進む	永福寺山遺跡(下米内) 薬師社脇遺跡(浅岸)	
飛鳥時代			1,400年前	593 聖徳太子が摂政となる 645 大化の改新	上田蝦夷森古墳群(黒石野) 竹鼻遺跡(上鹿妻) 太田蝦夷森古墳群(上太田) 百目木遺跡(三本柳) 台太郎遺跡(向中野) 釜崎遺跡(玉山区好摩)	
奈良時代		710	平城京に都をうつす	西鹿渡遺跡(三本柳) 永井古墳群(玉山区永井) 館・松ノ木遺跡(上太田)		
		724	多賀城が築かれる	【国史跡】志波城跡(下太田) 台太郎遺跡(向中野) 前野遺跡(浅岸) 乙部方八丁遺跡(乙部) 林崎遺跡(下太田) 芋田遺跡(玉山区芋田) 稲荷町遺跡(大館町・稲荷町) 内村遺跡(下飯岡)	細谷地遺跡(向中野) 赤巖遺跡(西青山)	
平安時代		774	陸奥国38年戦争始まる(〜812年)			
		794	平安京に都をうつす 胆沢城(802)志波城(803)徳丹城(812)が築かれる			
中世・近世		鎌倉時代	894	遣唐使が停止される		
			1,000年前	1016 藤原道長が摂政となる 1051 前九年の戦い(〜1062年) 1083 後三年の戦い(〜1087年) 1124 中尊寺金色堂完成 1189 奥州藤原氏滅亡		
	室町時代	800年前	1192 源頼朝が征夷大将軍となる 文永の役(1274) 弘安の役(1281)	大宮遺跡(本宮) 堰根遺跡(浅岸) 台太郎遺跡(向中野) 落合遺跡(下米内) 里館遺跡(天昌寺町) 安倍館遺跡(安倍館町) 日戸館遺跡(玉山区日戸) 下田館遺跡(玉山区下田) 玉山館遺跡(玉山区玉山)	宿田南遺跡(北夕顔瀬町)	
		600年前	1336 南北朝に分かれ、対立する 1338 足利尊氏が征夷大将軍となる 1404 足利義満、明との貿易を開始する 1467 応仁の乱	【国史跡】盛岡城跡(内丸) 一里塚 南部家墓所(北山) 山蔭窯(茶畑)・花古窯(新庄)	【国史跡】盛岡城跡(内丸) 盛岡城遠曲輪跡(神明町)	
	安土桃山時代	1588	南部信直が志和郡を攻略する			
		1590	豊臣秀吉が天下を統一する			
	江戸時代	1603	徳川家康が征夷大将軍となる			
		1641	鎖国の体制が固まる			
	近代	明治時代	1853	アメリカの使節ペリーが浦賀に来る		
			1867	大政奉還 王政復古の号令		

平成27年2月7日(土)~5月17日(日)

盛岡市 遺跡の学び館

〒020-0866 盛岡市本宮字荒屋13-1
TEL 019-635-6600 FAX 019-635-6605

◆平成26年度調査成果報告会◆

細谷地遺跡・赤巖遺跡・宿田南遺跡

盛岡城遠曲輪跡・国指定史跡 盛岡城跡(予定)

■日時 平成27年3月1日(日) 13:30~15:30

■会場 盛岡市遺跡の学び館 研修室(定員80名)

※入場無料、直接会場へどうぞ。

平成26年度に発掘調査した遺跡



宿田南遺跡 (しゅくだみなみいせき)

第11次調査 北夕顔瀬町

北上川と雫石川に挟まれた台地の上に立地しており、近くには宿田遺跡、館坂遺跡、里館遺跡などが存在しています。今回の調査では、室町時代から戦国時代の竪穴建物跡2棟、掘立柱建物跡1棟、通路跡が確認されました。竪穴建物跡からは火を焚いたと思われる炉の跡や、室町時代から戦国時代に流通していた鑊銭(びたせん：中国銭のコピー)の破片が出土しました。この遺跡で室町時代から戦国時代の竪穴建物跡が確認されたのは初めてのことで、工房(作業場)や兵舎などとして使われたと考えられ、当時の屋敷か城館の一部と推定されます。



第11次調査 2号竪穴建物跡

盛岡城遠曲輪跡 (もりおかじょうとおくるわあと)

第15次調査 神明町

遠曲輪は盛岡城の外堀に囲まれた区域で、今回の調査地点は神明町です。遠曲輪の東側を区画した江戸時代の土塁1条、堀1条、排水溝跡2条、土坑5基が確認され、戦国時代末期から江戸時代の陶磁器が出土しました。土塁の東側には幅9~10mと推定される堀が確認され、深さは1.5mまで確認されましたが、さらに1.5mほど深いものと推定されます。またその下層からは平安時代の竪穴建物跡1棟、土坑3基などが確認されました。竪穴建物跡は一辺が約7mで、出土した土器から9世紀後半から10世紀前半のものと考えられます。

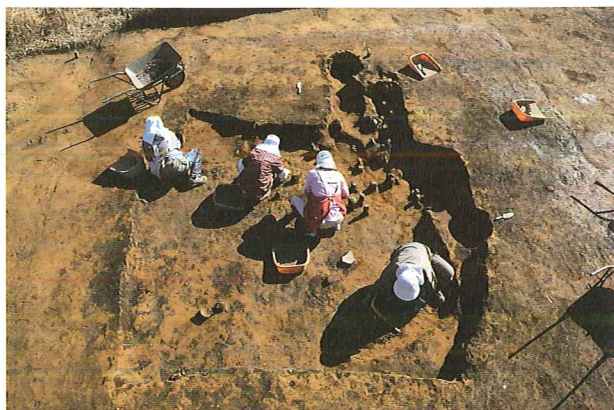


第15次調査 土塁

細谷地遺跡 (ほそやちいせき)

第34次調査 向中野

これまでに奈良・平安時代の竪穴建物跡が200棟以上確認されている古代の集落遺跡です。今回の調査では縄文時代の陥し穴状土坑7基、奈良・平安時代の竪穴建物跡10棟、時期不明の土坑7基、溝跡4条が確認されました。竪穴建物跡からは土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕、あかやき土器の坏・甕、墨書土器や刻書土器などの遺物が出土しました。昨年度調査区よりも南東部で建物跡が確認されたので、さらに集落範囲が南東に拡大していると考えられます。また、今回多く確認された陥し穴は、縄文時代の集落の様子を考える材料の一つになるでしょう。



第34次調査 RA233竪穴建物跡 調査風景

国指定史跡 盛岡城跡 (もりおかじょうあと)

第34次調査 内丸

盛岡城は、旧北上川と中津川の合流点の丘陵を利用して築かれた平山城です。今年度は三ノ丸北西および南東部の石垣解体修復工事のための事前調査を4箇所行いました。三ノ丸北面の石垣には宝永2年(1705年)に積み直された際の銘石が残されていますが、三ノ丸北西の調査では宝永2年の石垣の栗石と盛土層、石垣下部の調査では根石の深さや根固めの状態を確認しました。また『明和三年書上盛岡城図』に描かれている三ノ丸北西斜面の石垣の一部が発見されました。藩政期の軒丸瓦(双鶴文)や軒平瓦(蕪文)などが出土しています。



第34次調査 D区全景

赤巖遺跡 (あかほろいせき)

第3次調査 西青山

岩手山の火山噴出物で形成された滝沢台地南西側の緩やかな斜面部に立地しています。これまでの調査では、縄文時代の陥し穴状土坑などが確認されています。

今回の調査でも縄文時代の陥し穴状土坑2基のほか、平安時代後期(11世紀)の土器焼成遺構1基、掘立柱建物跡、江戸時代の溝跡などが確認されました。11世紀の土器焼成遺構が確認されたのは岩手県内では初めてで、遺構からは坏や高台付坏、小皿などが多く出土しました。近くに土器を大量に消費する場所(柵・館・役所など)が存在したと考えられます。



第3次調査 土器焼成遺構

大船渡市 長谷寺遺跡 (ちようこくじいせき)

第2次調査 赤崎町

盛川河口付近の東岸にある大船渡丘陵の縁辺に立地します。今回の調査では縄文時代前期・中期・古代(平安時代)の遺物包含層、縄文時代中期の貯蔵穴23基、平安時代の竪穴建物跡5棟などが確認されました。貯蔵穴とは食料を蓄えた土坑で断面形がフラスコ状になるものが多く、フラスコ状土坑とも呼ばれます。遺物包含層はもともと沢状の地形だったところを埋めるように形成され、縄文時代の層からは多量の縄文土器や石器、土製品が出土しました。また、平安時代の竪穴建物跡からは土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕、あかやき土器の坏・高台付坏・甕、刀子や鉄鍬などの鉄製品が出土しました。



縄文時代の貯蔵穴群

縄文土器出土状況